

# HOPPY Magazine

# 50

[ホッピーマガジン]

◎第50号

2018年2月発行



# ★ HOPPY MINA IN ★ NEW YORK ★

## 節目の年の幕開け 新天地で決意新たにいざ出陣。

2018年、ホッピーは誕生70周年。節目を迎えるのはホッピーだけでなく、ホッピービレッジ3代目・石渡美奈も生誕50年。同誌の50号発刊月である今月、誕生日を迎えることもあり、今号は「広告塔」でもある彼女自身が表紙を飾ることに。撮影秘話をレポートする。

Photo by Ryan Slack / Text by Kei Itoya



フォトグラファーのライアン・スラックさん。



書店「The Mysterious Bookshop」のオーナー、オットーさんと。



ヘアスタイリストのMichiさん（左）とメイクアップアーティストのAnnaさん（右）と。

「Hi Mina! So nice to meet you! (初めまして、ミーナ。お会いできてとってもうれしいです)」

表紙撮影の舞台は、ニューヨーク・トライベッカ地区。書庫のような、書斎のような雰囲気漂うミステリー専門書店「The Mysterious Bookshop」(58 Warren St., New York, NY 10007) に現れた石渡を迎えたのは、高級百貨店バーニーズ・ニューヨークとのコラボレーションなどで話題を呼んだ実力派フォトグラファー、ライアン・スラックさん。目を合わせての握手ひとつでなにか通じるものがあつたのか、撮影は終始和気あいあい。満足のいくカットを確認するたび、石渡とライアンはハイファイブを交わっていた。

「知的な女性との出会いは光栄だね」。書店のオーナー、オットー・ペンズラーさんも石渡を歓迎する

ニューヨーカーの一人だ。経営者同志、即意気投合したようで、そびえ立つ本棚を背に「これはどんな本なんですか?」と聞く石渡に「面白いよ、読んだことはないがね」とオットー。そんな冗談話をしながらのショットも。

### ホッピーらしく自分らしく

石渡美奈にとって、第2・第3のホームのような存在になりつつあるニューヨーク。今回の撮影で石渡のヘアを担当したスタイリスト、Michiさんとの付き合いももう4年になる。2010年の社長就任からありとあらゆることを学びとして吸収してきた石渡の勤勉さと知的な魅力を最大限に引き出してくれた。

今年はホッピー70周年という大きな節目であると同時に、2020年東京オリンピックまでもあつた

2年。「Tokyo Drink Hoppy」の可能性はこの節目の年、いかに「挑む」かで花開く。国内と海外、両方を飛び回る彼女だからこそ、実際に感じ確信してきたことがある。これまであたためてきた計画を公にし「国際元年の幕開け」も意識しているという。そんなさらなる飛躍の年を前に彼女が決意を固めに訪れた新天地、ニューヨーク。「ホッピーらしさ」や「自分らしさ」を貫く英気を手にした石渡の50歳の誓いと挑戦から、目が離せない。



ニューヨーカーのFriends & Familyを招いたホリデーパーティでのワンショット。



### 【第9回】

株式会社あなたの幸せが私の幸せ。世の為人の為、人類幸福、繋がり創造、即ち我らの使命なり。今まさに変革の時。ここに熱き魂と、愛と情、鉄の勇氣と、利他の精神を持つ者が結集せり。日々感謝、喜び、笑顔、繋がりを確かな一歩とし、地球の永続を約束する、公益の志溢れる我らの足跡に、歴史の花が咲く。いざゆかん、浪漫輝く航海へ！

代表取締役 CHO (Chief Happiness Officer)

栗原志功さんと

ギネス記録でもある世界最長の社名を経営する栗原志功さんは、SDMでは前野研究室の二つ先輩であり、講師でもある。特異な風貌に隠された情熱と視点は、人類の幸福を願う。

### 深夜のラブレター

石渡 SDMで幸福学を教えておられ、幸せになるポーズを取ると、幸せホルモンが出るっておっしゃってましたね。

栗原 例えば、セロトニンとか。いくつか幸せホルモンといわれるものがあります。スポーツで、ゾーンに入るときにドーパミンが作用していて。なんか仕事でもありますよね、そういうの。

石渡 仕事の勢いがつく瞬間とか、出てるんですね。

栗原 それを、とんでもないことをしかす前に使うんです。夜中の2時を過ぎてくると、なんでも面白おかしくなってくる時間帯ってあるじゃないですか。いっぱい出てきたアイデアを深夜のファミレスで紙ナブキンにも書いて。でも一晩寝て翌朝見返してみると全然おもしろくないんで捨てちゃう。深夜のその時に面白かったのは事実だから、寝ないままで実行しちゃえと。深夜のラブレターだと思っていて。仕事の企画でも、その勢いのままみんなにメールを送って、決まっちゃったんでよろしく、

みたいな。

石渡 そういう時のアイデアには穴があったり、完成度が低かったりしますよね。あとで支障はないんですか。

栗原 あります。でも決めちゃったんだもーんて。一斉メールでみんなに送っちゃうと、後に引けなくなる。社名の時

もそうで、でも管理本部から「無理です」と。契約書の甲乙欄にはいらないうえよって(笑)

### 世界一長い社名

石渡 では、その社名の話を。



栗原 朝礼で企業理念をみんなで唱和していたんですけど、ある日、これ無駄じゃね?と思っちゃったんです。理由は2つあって、1つは経営理念というのは企業の生き様、生き方だから、身内で言い合うんじゃないかと世間様に言わなくちゃ意味ないじゃないか。もう1つは、たくさんの想いや願いが、理路整然とさせるとだいたい削られちゃってる。綺麗に並んだ言葉を言ったところで、本当に伝わるのかと思って。なので、じゃあ変えちゃおうと。で、世間様にずっと言い続けるにはどうするか、社名にすればつい言っちゃうよねと、経営理念を社名にしようと考えたんです。

石渡 で、社名ができたけれど、それで混乱はありませんでしたか。

栗原 役所ではこの書類に入りきるならいいですけどと言われ、社名のスタンプを捺して出したら、枠からちょっとはみ出して、「ちゃんと枠内に入れてください」って。じゃあ手書きでいこうとなんとか枠内に収めて提出したら、真顔で「じゃ、ふりがなお願いします」って。もうなんか修行でした。

石渡 社名は、いろいろ考えたセンテンスを全部盛り込んだのですか。落語でいうと寿限無みたいな。

栗原 寿限無は103文字で、こちらは137文字。無駄にライバル視しています。「あなたの幸せが私の幸せ」はすんなり出てきました。もともと路上にレジャーシートを敷いて始めた頃から、そういう気持ちでやっていましたから。次に考えたのが、やっぱりオレたちは地球のためとか未来のために頑張っているんじゃないかと、話が大きくなって、後に引けなくなってしまった(笑)。それで、今は歌になって振り付けもあります。なかなか覚えられないので。

石渡 なるほど。

栗原 毎朝歌うんです。

♪カブシーキガイシヤ、アナタノシア

ワーセガ〜

それを振り付けありでやる。それが経営理念の唱和でもあり、あとラジオ体操効果もありで、社歌。

石渡 一石四鳥ですね。

栗原 仕事にもずっと流れているんで、みんなも覚えちゃうわけです。すると、歌いながら仕事をし出す人がいる。これって見方を変えると経営理念を口ずさみながら仕事をしているってことです。



石渡 経営理念って、本来あまり外に出ていかないものですよ。

栗原 これからは、伝わらないとお客様は選ばないという時代になる気がします。最近はSDGsとか自然との共生や環境も考えている企業じゃないと選ばれないという傾向がありますし。

石渡 経営理念がむき出しになっているって、すごいですね。

栗原 むき出しって、いいですね。全身凶器みたいで。で、経営理念を言うことが良いのは、嘘がつけません。例えば、世のため人のためと社名でいっておきながら日銭稼いだりFXやってたりしたらアウトじゃないですか。

石渡 社名を覚えている人っているんですか。

栗原 これが、結構いる。うちの社名を一番早く覚えたのはKDDIの営業さんでした。「私、言えますよ」ってスラスラ。すごい、言えるんだってこちらは感心するやら驚くやら。でも誰も正解を知らない(笑)

石渡 電話がかかってきた時は、どの

ように言ってるんですか。

栗原 今は短く「あなたの幸せは私の幸せの栗原がお相手します」と応えています。最初は全部言っていました。

石渡 全部!

栗原 あと、領収書も正式名称でもらってこいって言ってあった。で、一週間でクレームや苦情がごっそりと。電話も、社名をずっと言っていると途中で切られちゃうんです。なんか変なお経を唱え始めたよって。これは色々迷惑をかけるなって気づいて。じゃあ、省略した形でもいいよって。省略名が一番面白かったのが、社名の最初と最後だけ書いたやつ。「あ〜へ」って領収書。そこりますか、あへですか。この間、うちの社員さんに言われた。「実はまだ親に社名が変わったことを言ってないんです」。なんでと聞いたら、なんか変な宗教に入ったと思われそうって。

### ハッピーエンドを妄想する。

石渡 妄想がお好きなんですか。「全ては妄想から始まる」とおっしゃってる。

栗原 妄想族なんで(笑)

石渡 それは若い時から?

栗原 そうですね。ずっと喘息だったので、それがひどくてですね、発作が起こると寝てられないんです。起き上がって上体を立てているのが楽なので、それで苦しさも紛れるので、もういっぱい妄想して。何か事業を始める時も、ハッピーエンド、そこが映像化されてパッと見えないとやれないですね。

石渡 映像化?

栗原 頭の中にみんなが幸せそうな映像が浮かぶわけですよ。それが浮かべば、あとはそこに最短距離でどう向かうかを考えればいい。

石渡 ハッピーエンドの場面をまず思

い描く。問題解決という手法ではないと以前におっしゃってますね。

**栗原** 問題解決というのはわかりやすい成果も出やすい。でも、残念ながら、一つの問題を解決すると、違う問題が出てくる。ハッピーエンド、ここが理想だということに行こうぜって向かっていくと、気づいたら、いろんな問題が解決している。今、介護フラというのを始めたんです。座りながらでも車椅子でもフラダンスが踊れるしリハビリにもなる。さらに幸福度も上がる。今、いろんな施設で実施しています。で、そのハッピーエンドは何か考えた時、ワイキキビーチ特設ステージで介護フラ世界大会決勝戦が行われている映像が浮かんだ。これを施設のおばあちゃんにも何回も伝えているうちに、なんかハワイに行けそうな気がしてきちゃったわよと。そこまで辿り着ければ、他のいろんな問題、障害者と健常者の垣根を越えることだったり、あるいは幾つになっても夢を見ること、希望を持つことも達成できるかもしれない。

**石渡** 最初にイメージしたものを目指すことで、様々な問題もいつしか解決している。

**栗原** その方が楽しいんですね。問題解決型は意外と下を向くんです。で、使命感や悲壮感が漂っちゃう。みんな



で楽しくやってたら、勝手に応援団もできると思うんです。

**石渡** 妄想かどうかはわからないけど、私も結構近いかもしれない。先に絵がポンと浮かんで、その絵をより具体的におろしていく。その具体化という時に、あらゆる可能性を矢継ぎ早に検証し始めていますよね。頭の中で、周りの人たちがびっくりする。

**栗原** 「え、聞いてないですけど」みたいな反応(笑)

**石渡** だって、さっき思ったんだもんで。一番ひどいのは、言ったつもりになって、伝わってないのを怒られるというパターン。かわいそうに、言ってなかったねごめんねというパターン。

## 介護事業、ハグでギネスに挑戦。

**石渡** きっかけはおばあさまですか。

**栗原** うちのおばあちゃんが骨を折って、それで介護施設を見にいったら、働いている人たちが楽しくなさそうだった。それなら自分の理想な施設を作っちゃえばいいじゃんと思ったのがスタートでした。

**石渡** でも簡単に作れないのでは。いろんな制限とか。

**栗原** あります。いろんな抵抗勢力が出てきたりして。

**石渡** それで思い描いていたイメージとはどうだったんです。

**栗原** 高齢者施設というのができたんですけど、本当は垣根を無くしたかった。本来ならみんなで助け合いながら生きて行く社会があった。それがいきなり区切ってお年寄だけを集めるって変じゃないのと。もっと融合させて、いろんな人たちが集まる、そういう村

的なものを作りたかった。今年のテーマを漢字で書くと、「溶」なんです。もっと溶け合っちゃって、垣根なくしちゃおうよと思っています。

**石渡** ギネスへの挑戦は、今もやってらっしゃるんですか。

**栗原** 今年は4月に特別養護老人ホームでやります。去年、新しく運営を始めた社会福祉法人ですが、理事長としての出勤初日、ウキウキして、施設についた瞬間に事務長が来て、「さっそくで申し訳ないんですけど、この人に解雇宣告をして欲しいんですけど」って。問題を起こす人だったらしく、どうしようもないので、その人と呼んで、どうもはじめ



まして、さっそくで申し訳ありませんがやめてもらっていいですかというのが最初の仕事でした。

**石渡** うわあ～。

**栗原** ちょー心痛くて。どよんとしていたら、今度はいろんな部署から次々に人がやって来て、あれをこーしたい、これをあーしたいと要望が山のように出て、おまけに、お互いに自分の方が辛いよトークが始まって、なにこの雰囲気。とりあえず話し合いの場を設けるからと帰ってもらった。もう初日でそんな感じですよ。でも、帰りの電車の中で、あ、これいけるわと思ったんです。頭の中ではハッピーエンドが見えてきちゃって。

**石渡** どのような？

**栗原** 映画みたいだなと思ったんで

す。行きの電車の中でワクワクしていたのが、いきなり解雇宣告でドーンと落ちて、さらに何段か続けて落ちて、落ちたところで、何かのきっかけがあって、あとは一致団結してハッピーエンドに向かう。これって映画のストーリーでしょ。思い描いたハッピーエンドは、夕暮れ時の浜で、夕日に向かってみんなで走る姿。どうやればそこに最短距離でいけるかを考えました。要望を一つずつ潰していっても、また違う不満が出てきて根本的な解決にならないから、よし、じゃあ、抱き合おうと思ったんです。

**石渡** 抱き合う？

**栗原** お互いにギスギスして、疑心暗

鬼になって、不必要に縦横割りがあるんです。どうやれば、溶けあえるかと考えたら、みんな抱き合っちゃえばいいじゃんと思った。そこで抱き合うギネスを検索したら、何回ハグできるかというギネスがあって、映像があるので観てみたら、結構ゆっくりハグなんです。これならいけそうと思って、これを施設内で挑戦しよう。

**石渡** ちゃんとハグするんだ。

**栗原** 本当は1月にやるつもりだったんですが、インフルエンザ真っ盛りで。リスク高いと言われ、確かにねと断念。じゃあ春にやりましょうと、今、練習してるんです。朝礼の時に。最初はみんな、はあ？という感じだったんだけど、だんだん自然になってきて、おじいちゃんおばあちゃんも一緒にハグして

ます。ギネス記録を達成するかしないかは、本当はどうでもいい。当日失敗したとしても残念だったわねとみんな笑顔になってるのが、オレの頭の中に浮かんでいて。挑戦して練習することに意義がある。そこで一気に垣根を超えて、みんなが分かり合えるから、いろんな問題が解決できている。

**石渡** 明るくなりそうなんです。

**栗原** 明るい希望しか感じないですね。ベタなことを言うと、自分自身にいつも言い聞かせるんです。「お前、これ解決できなかったら生きてる意味ないからな」。鏡に向かって言う感じで。

**石渡** それって、いろんなケースで、いつも思ってたんですか。

**栗原** 何か自分を鼓舞するとき、あるいはそれを持続させるときですね。そこまで思い込まないと爆発的なパワーにならない。とても大事なことなんですけど、エゴとか幸福学とか幸せとか、桃色バラ色でふわふわしている感がありますけど、それだけでやってたら世の中何も変わらない。すごく泥臭い部分というか、気合と根性という古臭いけれども、何か這いつくばることが大事。

**石渡** 気合と強気です。

**栗原** それを同時進行でやっておかないとね。

**石渡** 究極的に手に入れるものが幸福で、それを実現させるために気合と強気が必要みたいな。システムとサブシステムみたいな関係かな。

**栗原** 実は苦しみつつのもの、幸せの中の一部なんです。

**石渡** 私ね、慶應に最初に行った時に、すごい方がいるなと思ったんですよ。すごい繊細という裏付けがあって、学があって、羨ましいなと思って。それ



で、すごく自分が解放された感じがしました。今、初めて言いますが。最初は風貌が勢よく入ってきたからよくわからなかったけれど、フィジーやハワイのフィールドワークと一緒にいかせていただいて、いろんな話を伺ううちに、ものすごく考えていらして、目指しているものが本気であって、その上でこの解放感だと思った。そういう生き方っていいなと、自分で解放された。で、自分はこんなに小さくまとまっていたはいけないなと。今でも何か新しいことをやろうとするときに、こんなことやっちゃいけないかなと逡巡したりするのだけれど、いやいや、栗原さんを見なさいと。勝負に打って出るところとぎゅっと閉めているところがあって、多分、それは人に見せないだけけれど。だから、こうやって新規事業を次々に展開されて成功されておられるのですね。新しい形の経営者像をみせていただいています。本日はありがとうございます。







# group 4

## 支援という グルーピング

東日本大震災の被災地支援のために  
ホピトラは北に向かった。今も続ける支援活動。

# 「共生」

News & Information

### 復興ラベルのホッピー、できました。

3.11からの復興を前にしてスタートした「ホッピー deいきぬこう」作戦の復興ラベルが完成し、全国への出荷が始まりました。まずは、ホッピー330°ホッピーブラック、55ホッピーの3商品から、シンボルマークのついたデザインになっています。ハートを抱いているのは3代目一なぐです。このシンボルマーク付きラベルは、今後ホッピー社のビール等に順次展開予定。これらの売上の一部は、3.11の復興支援金として被災地に直接送られます。



▲復興ラベルのホッピー 第12号(2011年7月)



▲復興の靴、東北の若者へ 第19号(2012年3月)

### 3.11からの復興を支援するために、ホッピー deいきぬこう作戦が始まります。

復興支援活動の一環として、3.11からの復興を前にしてスタートした「ホッピー deいきぬこう」作戦の復興ラベルが完成し、全国への出荷が始まりました。まずは、ホッピー330°ホッピーブラック、55ホッピーの3商品から、シンボルマークのついたデザインになっています。ハートを抱いているのは3代目一なぐです。このシンボルマーク付きラベルは、今後ホッピー社のビール等に順次展開予定。これらの売上の一部は、3.11の復興支援金として被災地に直接送られます。

ホッピー de いきぬこう

ホッピー de いきぬこう

ホッピー de いきぬこう

▲復興支援のキャンペーン開始  
ホッピー deいきぬこう作戦第10号(2011年5月)

Reconstruction support

南相馬から、ご来社いただきました。

南相馬プロジェクト、成果が顕著のアップ。

制作、メイド by PAIKAJI

▲南相馬からご来社いただきました 第14号(2011年9月)

# group 5

## 製造という グルーピング

# 「切磋」

視野を広く世界に求め、  
常に品質向上を心掛け、ホッピーを大切につくる。

New factory

### 第3世代感動工場、竣工。



▲第3世代感動工場、竣工 第9号(2011年3月)

NEO 48

ホッピーの醸造ラインが  
めざましく革新された。  
それはNEO48。  
フルフライトの醸造ラインである。  
その特徴がすべてに表れている。

ホッピーがおいしくなった。  
それが、いちばんの性能。

NEO48の醸造ラインがめざましく革新された。それはNEO48。フルフライトの醸造ラインである。その特徴がすべてに表れている。

▲NEO48 ホッピーがおいしくなった。それが、いちばんの性能。 第45号(2017年3月)

ホッピー、ロングセラー特別賞を受賞。

ホッピー、ロングセラー特別賞を受賞。

ホッピー、ロングセラー特別賞を受賞。

▲ホッピー、ロングセラー特別賞 第41号(2016年7月)

赤坂ビール3タイプ、揃って金賞受賞。

赤坂ビール3タイプ、揃って金賞受賞。

赤坂ビール3タイプ、揃って金賞受賞。

▲赤坂ビール3タイプモンドセレクション金賞、同時受賞 第47号(2017年7月)

# group 6

## ホッピーの飲み方提案というグルーピング

ホッピーには無限の可能性が秘められている。その可能性は、達人たちによって引き出される。

# 可能性



▲1凍2冷スケーティングシャベットホッピー 第12号(2011年7月)



▲10年ぶりタモリ倶楽部 第26号(2013年5月)



▲夏冷。キャンペーン 第21号(2012年7月)



▲Hoppy Black The Feast Ginza 第27号(2013年7月)

# group 7

## 文化的取り組みというグルーピング

# 共演

ホッピーの自由な身のこなしは、表現者に寄り添い、枠にはまらない。



▲障害者芸術支援フォーラム 第49号(2017年12月)



▲軽井沢国際音楽祭 第35号(2014年10月)



▲HOPPY! GARDEN! 展 第49号(2017年12月)



▲ISAKを応援 第35号(2014年10月)



▲軽井沢国際音楽祭 第35号(2014年10月)



▲土屋武士、シリーズチャンピオンに。 第45号(2017年3月)



▲土屋武士、シリーズチャンピオンに。 第45号(2017年3月)

ワールドワイドという  
グルーピング

麦芽もホップも良質のものを求めて海外から。  
製品となったホッピーは、広く世界へ。

「**ボーダーレス**」



▲HOPPY x NYC 第28号(2013年9月)



▲NY発のデジタルマガジン 第29号(2013年12月)



▲食べ飲みで、NYナイト 第46号(2017年4月)



▲HOPPY NIGHT OUT in NYC 第44号(2016年12月)

笑顔と、ともにある。  
仲間と、ともにある。  
人と、ともにある。  
それがホッピーです。

垣根を超えて手を繋ぎ、  
人と人、心と心をつなぐ、掛け算が好き。  
幸せな場が好き、幸せな人が好き。  
だから、

ホッピーとハッピーは、くっついています。



# 石渡光一

## 嵐の自叙伝

Autobiography of a storm by Koichi Ishiwatari

第二十七回

### 「子供達の手に太陽を」編(後編)

昭和53年3月16日、解体工事業者が工事現場に資材を強行搬入しようとするのを涙の抗議で阻止した父母たちは、その夜のテレビニュースにも大写真で報道された。しかし、工事着工を目論む建築会社に対して私たちに抗うすべがないことは明らかだった。父母の会だけで工事を阻止することは、最終的には難しい。そこで、私は「児童の教育環境と太陽を守る連絡会議」として陳情書を作り、区議会議長や各委員長に届けに行った。土地買収は区が動いてくれないと解決しない。それを促すための陳情書だった。その意を受けて、助役、教育長、庶務課長が建築会社に出向いてくれた。しかし、交渉は難航した。

一連の行動について、中には、檜町小学校のお母さんたちは行き過ぎではないかという区議もいた。建築会社の不誠実さを知ってか知らずか、こうした意見が出て来るのも問題が長期化した弊害の一つと言えるだろう。

一旦工事を中止しても、膠着状態は不意に破られる。3月23日、解体工事業者がやってきて、現場に入ると窓や畳などを壊し始めた。古い家屋を取り壊す時は、積年の埃が辺りに舞う。急を聞きつけ集まった180人の父母の中にはこの埃を吸い込んだのか、とうとう病人が出て救急車で赤坂病院に搬送される騒ぎとなり、そこで工

事はストップ。再び2日間中止となった。この行き詰まった膠着状態を打破しようと私達は建築会社の本社に向き、「反対の為の反対をしているのではない。もう一度売買交渉のテーブルについてくれないか」と懇願をしたところ応じてくれた。しかし、その金額は坪400万円。私達は坪100万円を買ったことを知っていたので、1年も経たないのに子供相手にそんな暴利を貪ることはしないでくれとよくよく頼むと、それならと坪200万円(総額2億4千万円)で決着をみた。後日、すぐ区長と直接話をしてもらい、区長室でサインを交換した。ただし、最終決定は10日後の総務委員会で行うのでそれまでは校長にも内緒にしておくと某部長から言われた。ちょっと変な気はしていたが、当日、校長先生に喜んでいただきたい一心で一緒に出席をした。すると、助役が答弁に立ち、先に建築会社に提示した金額は、区側の計算違いのために用地買収は断念すると発言した。傍聴していた父母の会の人たちには青天の霹靂だった。計算違いとは我が耳を疑った。用地買収でようやく解決というその間際で、ちゃぶ台はひっくり返された。翌日、工事現場に解体業者がやってきて、屋根瓦を下ろし始め、さらにはボーリングのための機械も搬入してきた。到底納得できないお母さん方は、助役に面談を申し込んだ。助役は、間違いを

是正した金額で再交渉する気はないと回答してきた。不誠実とはこのことだ。

5月に入り、連絡会議は工事現場で実力阻止することを決め24時間体制を敷き、交代で現場に立ち番を立てることになった。5月中旬、現場が動いた。仮囲いをするために工事業者がやってきた。父母たちもたちまち150人集まった。「死んでも怪我をしても構わない、やってしまえ」とパイプを振り上げ暴言を吐く建築会社の社員に、父母たちは怯まなかった。職人たちが杭打ちを始めると、そこに足を入れ手を出した。職人たちは困り果て、社員の必死の号令にも踵を返すことなく仕事を放り出して帰ってしまった。結局赤坂警察署が仲介して工事は3日間休むことになった。その後も、工事を進めたい業者と阻止したい父母の間の攻防が繰り返されてはその都度警察が間に入るという事態が繰り返された。

5月24日、建築会社から私他4名の個人に対して損害賠償請求書が届いた。工事妨害により損害を受けたので64万円を請求するという内容だった。それには早速内容証明付きで返答をした。「建築会社は、売却を決断している一方で工事をするのはおかしい」「工事協定書を取り交わしてから工事をやる約束なのに、強引に工事に着工しようとするので阻止した。約束を守らないのはあなたの方だ」「我々は個人行動ではなく連絡会議の一員として行動している。従って個人への損害賠償請求は不適切だ」ということで請求を拒否した。しかし、建築会社は東京地裁に私ほか4名に工事妨害禁止の仮処分を申請し、裁判になった。対抗措置として、PTA側も工事禁止の仮処分を申請した。

7月に入り、ついに建築会社は工事を強行した。7月7日早朝、ガードマンと作業員総勢24名が周囲を固める

中で大型クレーン車が工事現場に搬入された。集まった父母たちに放水したりで、またしてもけが人が出た。抗議の声はますます強まり、工事車両はそのままに、その日は塀が閉じられた。

父母と工事業者との攻防とは裏腹に、頼みの綱の区側は、それに背く動きを密かにしていた。7月24日、文教常任委員会が開かれ、教育委員会は4月の時点で協定書の雛形を建築会社側に渡したと証言した。この時点ではまだPTAが建築会社と交渉中だったにも関わらず一方的に協定書を渡していたのだ。背信行為以外の何物でもない。我々は区からも見放されて孤立無援の状態だったのだ。そのことが明らかになっても、我々は粘り強く区が再度動いてくれるよう要請を続けるしかなかった。

8月26日、工事を妨害してはならないという仮処分の決定が出た。裁判官は、設計変更の話し合いを進めてはどうかと、建物の削減と和解を提言してきた。最終結審は3階半という結審がでた。こうして、なんとか小学校の日照権は守る目処が付き、我々檜町小学校及び中之町幼稚園父母、近隣住民と建築会社間で工事協定書が取り交わさ、ひとまずこの運動は幕を閉じるようになった。全く孤立無援の中で最後まで誰一人落伍

者もなく団結が貫けたのは、ひとえに子供たちを守りたいという共通した願いがあったからだ。子供達の教育環境を守る一心で常に活動してきたお母さんがたを誇らしく思えた。私たちの運動には賛否両論があった。時には、区議会からもあらぬ誹謗を受けたが、建物の削減でなんとか日照権を守ることはでき、日の当たらないプールは避けられた。それは運動の勝利と思っている。結局この土地は空き地のまま不動産屋を次々と渡り歩いたあげく、区が買収し、その後新校舎に建て替えられた。



現在の赤坂小学校の校舎と校庭



ホッピービバレッジには、森に入る研修がある。  
森の中に入り、一人になって、自分と対話する。  
その森のひとつが、山中湖にある。  
私たちは山中湖近くの森に出かけ  
森に分け入り、各自が木を選んだ。  
すぐに伐採はせず、選んだ木の樹皮を剥いた。  
樹皮を剥いた木は、立木のまま枯れる。



今度は木を伐採し、赤坂に運ぶことになった。  
伐採した木を裁断し、フローリングの板をつくった。  
自分たちが選んだ木を使って、自分たちの手で部屋を作ることなど、  
なかなか経験できることではない。

# h i - t o - t e - m a

## 赤坂で、森に帰る。

漆喰の壁も、職人さんなら鏡のように滑らかな壁面を作るのだろうが、  
自分たちの手を動かしながら塗った凹凸のある壁は、  
ひときわ愛着のある表情を見せる。  
そんな体験を重ねながら部屋はできた。森の部屋と名付けた。



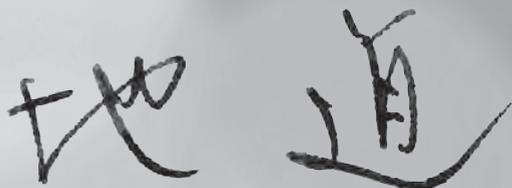
森での研修は、社員一人ひとりに多くの気づきを与えてくれる。  
都会に戻り、日々の仕事に追われていると  
往々にして、その気づきをどこかに忘れてきてしまう。  
それが、この部屋に来ると木の匂いなどから思い出せると、社員の一人が言った。  
そう、この部屋に入ると、たちまちあの森に戻ったような気持ちになれるのだ。  
立木のまま枯れさせた木は、フィトンチッドをずっと発するのだという。  
それがこの部屋に充満していて、森の記憶を蘇らせる。  
ここは、赤坂の森だ。

先日、ある取材を受けている際に森のリトリートの話になり、「石渡さんみたいに忙しい人が森に入ったら、退屈しょうがないんじゃないですか？」というから、頭の中が？マークだらけになった。だって私はもともと空想大好きな空想少女だから、退屈になるはずがない。赤毛のアン好きの、空想大好きで、趣味欄に空想癖と書きそうなほどだ。一番好きなのは、朝目覚めてからすぐに空想すること。ただし、前の日がアンハッピーだと朝の空想が楽しくない。生きていれば、人生、嫌なことはいっぱいある。それをその日のうちに消化しておかないと朝の空想に響く。子供の頃に赤毛のアンとか少女ポリアンナとか、決して幸福ではない子が自分の空想力を使って幸福をつかんでいくみたいな話が大好きで、片っ端から読んでいた。あれが今に生きていると思う。だから、読書の習慣をつけてくれた母には感謝している。こうしてみると、小学生の頃にやっていたことと今とで、あまり変わらないのかもしれない。

嫌な出来事も空想力でハッピーなものに転換する。もしかすると、すべては空想から始まるのではないだろうか。ビジョンや夢を描くというのは、今、目の前にないものをデザインするわけだから、空想力がないとできない。私の場合、空想スイッチは意識しなくてもすぐに入る。例えば、会議中に、あるセンテンスに触発されて議題とは違う発想が生まれる。面白い企画は、だいたいそういう時にできる。スイッチが入った

瞬間だ。

人間は99%が思い込みという研究があるそうだ。笑顔じゃない日も笑顔でいれば気持ちが上がる。脳はだませる。だましているから、空想を実現できる。もう一つは、心がフラットで、ニュートラルな状態にあり、幸せをキャッチする感度を高めておくこと。何かひとつのことに囚われている時は、おそらく自我がすごく出ているので、感性が鈍っているか眠っている。逆に



文字：石渡美奈

自我からフリーになっている時は、感性が優っていて、素直にものを感じることができる。いろいろなことに対して興味、好奇心、勇気をもてる。おもしろがれる。

人間は、知らないことのほうが圧倒的に多い。知っていると思っていることでさえ、その先がある。がんばって世界の縁まできたと思ったその瞬間、見えなかったカーテンが開いて、あれ？まだ先があると、呆然とする。不思議なのは、縁まで到達しないとその先

を見せてもらえないことだ。とことん縁までいかないと、次が見えてこない。実に、それが私がこれまで生きてきた中での実感だ。しかも、その次、その先というのは広がりを持って多岐にわたっている。知れば知るほど知らないことに気付かされる。人生のグレートジャーニーは、終わりが無いのだ。

縁まで行かないと次が見えない。つまり、生きるということに関して、飛び級はないのだと思う。ここで

**今、ここにないものを思い描く力。それがすべての始まりではないだろうか。空想力で道を描き、たどり着いた先に、また新たな地平が広がっている。ワクワクしながら、改めて一步を踏み出す。その繰り返しが人生なのかもしれない。地道に、ひたすら。人生に飛び級はない。**

いいやと思ったら、そこまでののだ。苦しかろうが進むしかない。一つひとつ着実にやって積み重ねていって、縁まで到達して、そのときにカーテンが開いて新しい世界を見せてもらえる。視野が広がる。新しい目標もみえる。

過去の経験でいえば、2007年頃にひとつの縁にきていた。そう感じながら、新卒採用がはじまり、私の人生が変わった。未知への新しい一步を踏み出した。その時を思い出せば、私は自分と会話をしていた。いま、

何だか踊り場感があるよなど。そういう課題意識が自分の中にあった。さらに、早稲田のビジネススクールで学ぶ話を聞いた時に、それが芥川龍之介の蜘蛛の糸のように、天から降りてきた1本の糸に思えた。早稲田に行ってもなるかはわからないけれど、先が見えるのではないか。この糸につかまってみることで変わるかもという予感がした。そして、実際そうだった。早稲田に行ったことで、ひとつカーテンを開けても

らった。うっすらとみえていた道に、ゆっくりとだが、蜘蛛の糸につかまっているうちに引っ張ってもらえ、次の世界に進むことができたと思う。

そして今また、なんとなく縁に近づいている気がするのだ。早稲田から慶應SDMと、いろいろ経験させていただき、そんな気がしている。なにかエキサイトしたい。それがまだ見えていないのだけれど、でも、縁をぶち破りたい、超えたいという想いがふつふつと、マグマのように私の中にある。さて、どうしようか。



# 50 & 70

## HAPPY ANNIVERSARY Mina & Hoppy

今号がお手元に届く頃、石渡美奈は50歳の誕生日を迎えます。

50号と50歳が重くなりました。

そして、今年の夏は、ホッピーは70周年を迎えます。

なにかと節目が重なる2018年、ますますハッピーをお届けできるよう精進いたします。

今後ともよろしく願い申し上げます。

【編集後記】 2010年3月、私が弊社3代目を拝命した折、ホッピーマガジンも産声を上げました。よもや、記念すべき50号と私の50歳の誕生日が重なるとは当時想像するはずもありません。さらに、愛するホッピーの70年と重なることも強い運命を感じる由縁の1つです。幾重にわたる巡り合わせの奇跡に力をいただきつつ、最幸の年とするべく一分一秒を懸命に生き抜きます。ホッピーマガジン共々、今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。(37)

**Hoppy Magazine**(ホッピーマガジン) 第50号(隔月発行) 2018年2月発行

編集長：石渡美奈 CD：齋藤利也 制作：サイトウズスキ事務所 デザイン：三門真嗣デザインスタジオ

発行：株式会社ホッピーミーナ 〒107-0052 東京都港区赤坂2-15-12 ☎0120-5137-88 [www.hoppy-happy.com](http://www.hoppy-happy.com) 印刷：株式会社和田フォトリソ印刷